

園のおたより



第 5 号

令和 4 年 8 月



埼玉大学教育学部附属幼稚園

自由研究と聞くと小中学校での夏休みの宿題として面倒なイメージを持たれている方も少なくないでしょう。夏休みの終わりに何をどうすればいいのかわからなくて困った経験があるからではないでしょうか。

私は夏休みには、親子で一つのテーマを研究してほしいと思います。子どもと一緒に疑問を追究したり、役立ちそうな物を作ってみたりしてほしいと思います。親は子どものサポート役として作業を手伝ったり、道具やその使い方を紹介してあげたり、安全にできているか見守ってあげてください。そして面白いことが見つかったり、上手い工夫ができた時は、思いきりほめてあげてください。

子どもは本来知的好奇心が旺盛です。「これは何?」「どうしてこうなるの?」と次から次へと大人に質問します。この知りたい意欲を維持することが、子どもの知的発達を活発にします。子どもの質問に直ぐに答えを与えることは、子どもの知りたい意欲を消失させやすいので注意が必要です。大人の役割は、子ども自身が答えを見つけて、さらにその先の疑問を調べたいような環境を整えてあげることです。わくわくするような知的探究を経験すると、他の人にそのことを伝えたいくなります。そこで子どもが他の人に自分が調べていることを知ってもらう機会を設けることで、上手く表現したいという意欲が高まります。行き詰った時は、博物館の学芸員さんに尋ねてみるのも良いでしょう。このように自由研究は、子どもの知的探究心を伸長させるのに有効に機能します。もちろん宿題のない幼稚園生にも楽しく探究することができます。

例えば「どうすれば美味しいゆで卵が作れるのかな」と子どもの前で悩んでみてください。きっと子どもなりのアイデアを考えて提案してくれるでしょう。しばらく卵の数と水の量、火加減、ゆで方とゆでる時間などの組み合わせを日に日に変えて、子どもと一緒に作ることで、次第に目的通りのゆで卵に近づいて行くでしょう。記録を残しながら比べることが大切です。ストップウォッチと温度計を使えるようにしておくとともに再現性の高い作り方が記録できるでしょう。この過程では、熱い物を安全に扱う技能や、時間や温度を数で用いる能力も身につきます。

夏休みには、ぜひ親子で自由研究を楽しんでみてください。